

夏の風！ 緑の庭に父を想う

石幡 悦子 福島県福島市 八十一歳

この夏の猛暑つづき。更には、四年に一度のオリンピック開催の年となり、世界中の熱気が高まりました。人々を興奮のるつぽに引き入れた熱き応援！そして心に残る沢山の想いを残して戦いの幕は閉じられました。次は再び東京オリンピックへと引き継がれます。懐かしい天国のお父さん！あなたの目に映ったオリンピックの一駒とは開会式の日本選手団の姿ではなかったでしょうか。かつて洋服の仕立てを業として、頑なに職人業を貫き通し、遂に前回の東京オリンピックのあの赤いブレザー製作の一助として力を尽くしたあなたの目に光る涙は、この夏、リオで開催された日本選手団の行進と重なりました。誇り高き大好きなあなたの姿を彷彿して私も涙しました。

仕事には厳しくても優しくかったお父さん。一段落すると庭に出て、いとおし気に草花の手入れをしては「草木はいいねえ！」と満面の笑み。気付けば八十路の私もいつしか同じ事をしているのです。小さな庭の樹々、泰山木、金木犀、姫椿などの幹に触れて癒されています。「今日も元気ね。暑いのに葉っぱが光ってる。水を上げるだけなのに、良い風をいつもありがとう！」樹木はさらりとした木綿の肌ざわりのぬくもりがあります。すると、何故か樹木の声が私の心に響くのです。「今日もよく頑張った。ごころうさん。ここに居るだけで喜んでくれて嬉しいナア！」今日も緑の風が私の心を通り抜けます。お父さん！木陰で蝸が秋立つ日を告げていますよ。